



まつだ・かずゆき
1999年東京医科歯科大学医学部保健衛生学科検査技術学専攻卒業。2001年同大学院保健衛生学専攻修了。同年信州大学医学部附属病院臨床検査部入職。2007年同大学院医学研究科病体解析診断学(臨床検査医学)修了。医学博士。2013年日本臨床検査医学会賞(検査・技術賞)受賞。

卒業生の今 活躍する医科歯科人

「検査」と「研究」の両輪で 先端医療に貢献する

信州大学医学部附属病院
臨床検査部 副技師長
松田和之氏
Matsuda Kazuyuki

先端医療の進展と相まって、その重要性が高まっている臨床検査。信州大学医学部附属病院臨床検査部に所属する松田和之さんは、生理機能検査や検体検査など多様な検査の中でも、特殊領域である染色体・遺伝子検査に従事している。研究にも力を注ぎ、「医療人」と「研究者」の両輪で進んできた。実は、学生時代からこの形態を目指していたという。

「大学進学にあたり、医療系を志す中で臨床検査に関心を持ち、国立大学検査系のバイオニアである東京医科歯科大学に入学しました。そして、当時の恩師から検査技師もその気があれば、学会発表や論文などを発信できると聞き、俄然やる気になったのです」

全国の大学病院の中でも技師が働きながら研究できる場所として恩師が薦めたのは、松田さんの地元でもある信州大学医学部附属病院。迷わず入職した同病院の臨床検査部は研究への意欲に満ちており、松田さんも現場から見出した課題を研究し始めた。しかし、



研究は通常業務ではないため、研究に費やせるのは業務外の早朝や夜、休日のみ。自身が望んだこととはいえ、厳しさは並大抵ではない。それでもモチベーションを保てるのは学生時代に芽生えたあんな思いだという。

「検査技術学の仲間是非常に意識が高く、将来について熱く語り合ったり、読んだことのない学術雑誌や本を貸してくれたり、常に刺激を与えてくれる存在でした。その経験から、自分も周囲に刺激を与える人間でありたい、と思うようになり、それが自分の姿勢を貫く支えになっています」

そして、精力的に取り組んできた「白血球診断における遺伝子変異特異的PCR法による微小残存病変評価と再発リスク」に関する研究が実を結び、日本臨床検査医学会学会賞など数々の賞を受賞。しかし、これは「あくまでも通過点」と語る松田さん。後進の教育という新たな目標を掲げつつ、今後も先端医療に寄与する臨床検査と研究を続けていく。



信州大学医学部附属病院 長野県松本市旭3丁目1番1号 0263-35-4600

診療科目：内科、精神科、小児科、皮膚科、放射線科、外科、整形外科、脳神経外科、特殊歯科・口腔外科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、産科婦人科、麻酔科蘇生科、形成外科、救急科、総合診療科

病床数：707床(一般病床667床、精神病床40床)

スタッフ：1,744人(2014年8月現在)

「信州から世界へ」をスローガンに患者さんへより安全で高度な先進的医療を提供し、次代を担う医療人を育成する。